



Level 4・5

2011年度 第2回

問題用紙

検定開始の合図があるまで、問題を開いてはいけません。
まず、下記の注意をよく読んでください。

●^{じゅけん}受検上の注意●

1. 検定時間^{けんてい}は60分です。
2. 検定開始前に答案用紙に受検番号・氏名・生年月日を必ず記入してください。
3. 検定が始まって、印刷が見えにくかったり、ページがおかしかったりしていたら、手をあげて^{かんとくしゃ}監督者に知らせてください。
4. 問題のあいているところは自由に利用してください。
5. 問題は、答案用紙と^{いっしょ}一緒に^{かいしゅう}回収します。

問題 I 次の文章は、新美南吉の「手袋を買いに」です。よく読んで、後の問に答えなさい。

第一問

寒い冬が北方ほっぽうから、きつねの親子おやこのすんでいる森へもやっ来て来ました。

問一 「やっ来て来ました」の主語しゆじを答えなさい。

問二 —— 線部「も」についての説明せつめいです。最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選びなさい。

- ア 本当は「森に」と書くべきで、この「も」の使い方は間違まちがっている。
- イ 本当は「森へ」と書くべきで、この「も」の使い方は間違まちがっている。
- ウ きつねの親子おやこのすんでいる森以外にも冬が来たことをあらわしている。
- エ きつねの親子おやこのすんでいる森だけに冬が来たことをあらわしている。

問三 この一文の説明せつめいをしたものとして最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選びなさい。

- ア 「やって来ました」とていねいな方で、読者に気をつかっている。
- イ 「北方から」は、「すんでいる」をかざっている。
- ウ 「きつねの親子の」の「の」は、「が」に置きかえることができない。
- エ 人ではないものを人にたとえて表現する方法（擬人法）を使っている。

第二問

ある朝洞穴から子供のきつねが出ようとしたが、

「あっ」と叫んで眼を抑えながら母さんぎつねのところへころげて来ました。

「母ちゃん、眼に何か刺さった、ぬいてちょうだい早く早く」と言いました。

母さんぎつねがびっくりして、あわてふためきながら、眼を抑えている子供の手を恐る恐るとりのけて見ましたが、何も刺さってはいませんでした。母さんぎつねは洞穴の入口から外へ出て始めてわけがわかりました。昨夜のうちに、真白な雪がどっさり降ったのです。その雪の上からおひさまがキラキラとてらしていたので、雪はまぶしいほど反射していたのです。雪を知らなかった子供のきつねは、あまり強い反射をうけたので、眼に何か刺さったと思ったのでした。

問

子供のきつねが「何か目に刺さった」と思いましたが、実際には何も刺さってはいませんでした。子供のきつねにそう思わせた原因は何ですか。「くから。」に続く形で十五字以内で本文から抜き出して答えなさい。

第三問

子供のきつねは遊びに行きました。() のように柔かい雪の上を駆けまわると、雪のこが、しぶきのように飛び散って小さい虹がすとと映るのでした。
すると突然、うしろで、

「どたどた、ざーっ」とものすごい音がして、パン粉のような粉雪が、ふわーっと子ぎつねにおつかぶさって来ました。子ぎつねはびっくりして、雪のなかをころがるようにして十メートルも向こうへ逃げました。何だろーと思つてふり返つて見ましたが何もありませんでした。それは樅の枝から雪がなだれ落ちたのでした。まだ枝と枝の間から白い絹糸のように雪がこぼれていました。

問 () に入る言葉を、次のア～エの中から一つ選びなさい。

- ア 真綿 イ 小石 ウ みかん エ 粉雪

第四問

間もなく洞穴へ帰って来た子ぎつねは、
「お母ちゃん、お手々が冷たい、お手々がちんちんする」と言つて、濡れて牡丹色になった両手を母さんぎつねの前にさしだしました。母さんぎつねは、その手に、は——と息をふっかけて、ぬくとい母さんの手でやんわり包んでやりながら、

「もうすぐ暖あたくなるよ、雪をさわると、すぐ暖あたくなるもんだよ」といいました（1）、かあいい坊ぼやの手に霜しも焼やができてはかわいそうだ（2）、夜になったら、町まで行って、坊ぼやのお手て々にあうような毛けい糸いとの手袋てぶくろを買かってやろうと思おもいました。

問 （1）には一字、（2）には二字のひらがなを入れなさい。

第五問

暗くい暗くい夜よが風ふう呂ろ敷しのような影かげをひろげて野原のや森のを包かみにやっつて来こましたが、雪ゆきはあまり白しろいので、包かんでも包かんでも白しろく浮うびあがつていました。

問 —— 線部せんぶで描えがかれた風景ふうけいの説明せつめいとしてふさわしいものを、次のアあエえの中なかから一いっつ選えらびなさい。

- ア 野原のや森のは真まつ暗くらな夜よの中なかだが、真まつ白しろな雪ゆきは浮うき上あがつて見みえる。
- イ 真まつ白しろな雪ゆきの中なかに野原のや森のが包かまれ、その中なかに夜よがとけ込こんでいる。
- ウ 真まつ暗くらな夜よのためために、野原のや森のに積たもつた雪ゆきが見みえなくなつている。
- エ 真まつ白しろな雪ゆきが、夜よの野原のや森のを包かみ込こんでいる。

第六問

親子の銀ぎつねは洞穴ほらあなから出ました。子供こどもの方はお母さんのお腹なかの下へはいりこんで、そこ①からまんまるな眼めをぱちぱちさせながら、あつちやこつちを見ながら歩いて行きました。

やがて、行手ゆくてにぼつとりあかりが一つ見え始めました。それを子供こどものきつねが見つけて、

「母ちゃん、お星さまは、あんな低いところにも落ちてるのねえ」とききました。

「あれはお星さまじゃないのよ」と言つて、その時母さん③ぎつねの足はすくんでしまいました。

「あれは町の灯ひなんだよ」

その町の灯ひを見た時、母さんぎつねは、ある時町へお友達ともだちと出かけて行つて、とんだめにあったことを思出おもいだしました。およしなさいつていうのもきかないで、お友達ともだちのきつねが、ある家のあひるを盗ぬすもうとしたので、お百姓ひやくしやうに見つかつて、さんぎ追いまくられて、命いのちから逃にげたことでした。

問一 —— 線部① 「そこ」は何を指していますか。十字以内で抜き出しなさい。

問二 —— 線部② 「お星さま」は本当は何だったのですか。五字以内で抜き出しなさい。

問三 —— 線部③ 「母さんきつねの足はすくんでしまいました。」とありますが、その理由を三十字以内で説明しなさい。

第七問

「母ちゃん何してんの、早く行こうよ」と子供こどものきつねがお腹なかの下から言うのでしたが、母さんぎつねはどうしても足がすすまないのでした。()、しかたがないので、坊やぼうやだけを一人で町まで行かせることになりました。

「坊やお手て々を片方かたほうお出し」とお母さんぎつねがいました。その手を、母さんぎつねはしばらく握にぎっている間に、可愛い人間にんげんの子供こどもの手にしてしまいました。坊やぼうやのきつねはその手をひろげたり握にぎったり、つねって見たり、嗅かいで見たりしました。

「何だか変だな母ちゃん、これなあに？」と言って、雪あかりに、またその、人間にんげんの手に変えられてしまった自分の手をしげしげと見つめました。

「それは人間にんげんの手よ。いいかい坊や、町へ行ったらね、たくさん人間にんげんの家があるからね、まず表にまるいシャツポの看板かんばんのかかっている家を探さがすんだよ。それが見つかったらね、トントンと戸を叩たたいて、今晚こんばんはつて言うんだよ。そうするとね、中から人間にんげんが、すこうし戸をあけるからね、その戸のすきまから、こっちの手、ほらこの人間にんげんの手をさし入れてね、この手にちようどいい手袋頂戴ていぶくろちようだいつて言うんだよ、わかったね、決して、こっちのお手て々を出しちや駄目だめよ」と母さんぎつねは言いきかせました。

問一 () に入ることをばを、次のア～エの中から一つ選びなさい。

- ア しかし イ つまり ウ なぜなら エ そこで

問二

お母さんぎつねは、子供のきつねに、どんな順番で手袋を買うようにいいましたか。次のア～エを手袋を買う順番に並べかえて、記号で答えなさい。

- ア トントンと戸を叩いて、今晚はつて言う。
- イ この手にちようにいい手袋を頂戴つて言う。
- ウ 表にまるいシャツポの看板のかかっている家を探す。
- エ 戸のすきまから、人間の手を差し入れる。

第八問

「どうして？」と坊やのきつねはききかえました。

「(1)、(2)、(3)」

「ふーん」

「決して、こっちの手を出しちやいけないよ、こっちの方、ほら人間の手の方をさしだすんだよ」と言って、母さんのきつねは、持って来た二つの白銅貨を、人間の手の方へ握らせてやりました。

問一

(1) (2) (3)に入る一文を、それぞれ次のア～ウから選んで、記号で答えなさい。

ア それどころか、つかまえて檻おりの中へ入れちやうんだよ
 イ 人間にんげんって本ほん当とうに恐おそいものなんだよ
 ウ 人間にんげんはね、相あ手てがきつねだと解わかると、手て袋ぶくろを売うってくれないんだよ

問二 「決きして、こっちの手を出しちやいけないよ」とありますが、「決きして」はどのことばとつながっていますか。次のア〜エの中から一つ選えびなさい。

決きして、 ア こっちの イ 手を ウ 出しちや エ いけないよ

第九問

子供こどものきつねは、町の灯ひを目めあてに、雪ゆきあかりの野原のほらをよちよちやつて行いきました。始めはじめのうちは一いつきりだった灯ひが二ふつになり三みつつになり、はては十じゅうにもふえました。きつねの子供こどもはそれを見みて、灯ひには、（ ）と同じように、赤あかいのや黄きいのや青あおいのがあるんだなと思おもいました。やがて町まちにはいりましたが通とりの家々いえいえはもうみんな戸とを閉しめてしまって、高たかい窓まどから暖あたたかかそううな光ひかりが、道みちの雪ゆきの上うへに落おちているばかりでした。

けれど表うらの看板かんばんの上うへには大たいいい小こさな電燈でんとうがともつていましたので、きつねの子こは、それを見みながら、帽ぼうし子屋やを探さがして行いきました。自じ転車てんしゃの看板かんばんや、眼鏡めがねの看板かんばんやその他ほかいろんな看板かんばんが、あるものは、新あたらしいペンキで画えかれ、あるものは、古ふるい壁かべのようにはげていましたが、町まちに始はめて出でて来きた子こぎつねにはそれらのものがいったい何なにで

あるか分らないのでした。

問 () には漢字一字が入ります。次のひらがなを組み合わせることによって、漢字に直して答えなさい。

い。ただし、すべてのひらがなを使う必要はありません。

し り か ほ い

第十問

とうとう帽子屋がみつかりました。お母さんが道々よく教えてくれた、黒い大きなシルクハットの帽子の看板が、青い電燈に照されてかかっていました。

きつねは教えられた通り、トントンと戸を叩きました。

「今晚は」

すると、中では何かことごと音がしていました。戸が一寸ほどゴロリとあいて、光の帯が道の白い雪

の上に長く伸びました。

きつねはその光がまばゆかったので、めんくらって、まちがった方の手を、——お母さまが出しちやいな

いと言つてよく聞かせた方の手をすきまからさしこんでしまいました。

「このお手々にちようどいい手袋下さい」
すると帽子屋さんは、おやおやと思いました。きつねの手です。きつねの手が手袋をくれと言うのです。これ

はきつと（ ）で買いに来たんだなと思いました。そこで、

「先にお金を下さい」と言いました。子ぎつねはすなおに、握にぎって来た白銅貨はくどうかを二つ帽子屋ぼうしやさんに渡わたしました。帽子屋ぼうしやさんはそれを人差指ひとさしゆびのさきにつけて、カチ合せて見ると、チンチンとよい音がしましたので、これは木の葉はじゃない、ほんどのお金だと思いましたので、棚たなから子供用こどもようの毛糸けいとの手袋てぶくろをとり出して来て子ぎつねの手に持たせてやりました。子ぎつねは、お礼を言っただけで、もと来た道を帰り始めました。

問一 —— 線部①「戸いっすんが一寸ほどゴロリとあいて、光の帯が道の白い雪の上に長く伸びました。」とあります

が、この情景じょうけいの説明せつめいとしてもっともふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選びなさい。

ア 戸あかのすきまから家の灯りがもれて、道の上の雪を細長ほそながく照らした。

イ 光の束が白い道に積もった雪の上を照らし出した。

ウ 戸のすきまからもれた灯りが、道の上の雪を広々ひろびろと照らした。

エ 光の束が戸のすきまから細くもれ出して、白い道を遠くまで照らした。

問二 —— 線部②「子ぎつねはその光がまばゆかったので、めんくらって、まちがった方の手を、——お母さ

まが出しちゃいけないと言っただけでよく聞かせた方の手をすきまからさしこんでしまいました。」を、二十五字以内で一文にまとめなさい。

問三 () に入る三字のことばを、本文から抜き出しなさい。

第十一問

「お母さんは、人間は恐ろしいものだっておっしゃったがちつとも恐ろしくないや。(1) 僕の手を見てもどうもしなかったもの」と思いました。けれど子ぎつねはいったい人間なんてどんなものか見たいと思いました。ある窓の下を通りかかると、人間の声がありました。何というやさしい、何という美しい、何と言うおっとりした声なんでしょう。

「ねむれ ねむれ

母の胸に、

ねむれ ねむれ

母の手に――」

子ぎつねはその唄声は、きつと人間のお母さんの声にちがいないと思えました。だって、子ぎつねが眠る時にも、やっぱり母さんぎつねは、あんなやさしい声でゆすぶってくれる(2)です。

問 (1) (2) に入ることばを、次のア～エの中から一つ選びなさい。

- ア そして イ けれど ウ から エ だって

第十二問

するとこんどは、子供の声^{こども}がしました。

「母ちゃん、こんな寒い夜は、森の子ぎつねは寒い寒いってないでるでしょうね」
すると母さんの声が、

「森の子ぎつねもお母さんぎつねのお唄^{うた}をきいて、洞穴^{ほらあな}の中で眠^{ねむ}ろうとしているでしょうね。さあ坊^{ぼう}やも早くねんねしなさい。森の子ぎつねと坊^{ぼう}やとどっちが早くねんねするか、きつと坊^{ぼう}やの方が早くねんねしますよ」

それをきくと子ぎつねは急にお母さんが恋^{こい}しくなつて、お母さんぎつねの待っている方へ跳^とんで行きました。

問

——線部「子ぎつねは急にお母さんが恋^{こい}しくなつて、お母さんぎつねの待っている方へ跳^とんで行きました。」の主語を答えなさい。

第十三問

お母さんぎつねは、心配しながら、坊やのきつねの帰って来るのを、今か今かとふるえながら待っていましたので、坊やが来ると、暖い胸に抱きしめて泣きたいほどよろこびました。

二匹のきつねは森の方へ帰って行きました。月が出たので、きつねの毛なみが銀色に光り、その足あとには、コバルトの影がたまりました。

「() 1 ()」

「() 2 ()」

「坊、間違えてほんとうのお手々出しちゃったの。でも帽子屋さん、掴まえやしなかったもの。() 3 ()」

と言って手袋のはまった両手をパンパンやって見せました。お母さんぎつねは、

「() 4 ()」とあきれましたが、「ほんとうに人間はいいものかしら。ほんとうに人間はいいものかしら」とつぶやきました。

問 () 1 () () 4 ()に入るセリフを、次のア～エの中から一つ選びなさい。

ア まあ！

イ どうして？

ウ 母ちゃん、人間ってちつとも恐くないや

エ ちゃんとこんない暖い手袋くれたもの

次のページへ続く

問題Ⅱ 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

わりばしについて考えたことがありますか。

コンビニで弁当やカップラーメンを買うときにもいつもついてきますね。そのわりばしは日本だけでも一年間約二百五十億膳おくぜんも使われているのです。(ア)

このわりばしは森林を切り倒たおして作られたものなのです。今や、日本中の木がどんどん切り倒たおされているのです。

①では、この森林はどんな役わりを果たしているのでしょうか。

まず森林は二酸化炭素にさんかたんそを吸収きゆうしゆうし、酸素さんそを作り出します。二酸化炭素にさんかたんそを吸収きゆうしゆうすることで地球温暖化ちきゅうおんだんかを阻止そしするだけでなく、私たちにきれいな空気くうきを提供ていきようしてくれます。(イ)

②でも、実はそれだけではないのです。森林は地面の中に四方八方根しほうはっぽうを張り巡めぐらすことで、大雨になっても水を吸収きゆうしゆうしたり、土や石をしつかりと抱かかえ込んでくれたりと、大災害だいさいがいになることを防ふせいでくれるのです。(ウ)

③したがって、こんな大切な役わりを果たしている森林を、私たちはどんどん伐採ぼっさいし続けているのです。何もわりばしを使わなくても、はしは洗あえば何度なんども使えます。

私たちは今こそ地球ちきゅうの環境かんきようを守らなければなりません。それは決して難むずかしいことではないのです。ちよっとした心がけで、この地球ちきゅうの環境かんきようを少しでも守ることができるのです。(エ)

問一

次の一文はもともと本文の中にあつたものです。(ア)～(エ)のどこにあつたものなのか、記号で答えなさい。

もちろん、これらのわりばしはすべて使い捨てです。

問二

——線部①～③の接続語のうち、一か所が間違っています。間違つた接続語を番号で答え、正しい接続語を次のア～エから選びなさい。

- ア だから イ あるいは ウ それなのに エ たとえば

問三

この文章の表題としてふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選びなさい。

- ア わりばしと森林
イ 地球温暖化問題
ウ 二酸化炭素と地球温暖化
エ 環境を守るための心がけ

問題Ⅲ 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

今はあまり見慣れない光景だが、日本では客が来たときに、自分が座っている座ぶとんを裏返して差し出すことがある。

裏返すという行為によって、自分の座っていた座ぶとんが新しいものとなったのである。実際には新しかったのではなく、意味の上で新しくなったと、主人と客人が互いに認め合ったことになる。暗黙の了解が成り立つところに、文化があるのだ。

西洋では、自分のぬくもりが残っている座ぶとんを客にさしだすのは失礼にあたる。やはり、まだ体温が残っていない座ぶとんを客に勧めることになる。そこに文化の違いがない。

裏返すという仕草によって、座ぶとんが新しくなったと見なすということは、日本の文化は仕草の文化だといふことができる。たとえば、お茶や生け花を思い起こせば分かりやすいかもしれない。あるいは、神社で神主たちが祈禱するとき、その一つ一つの（ ）によって、神が立ち現れたり、去ったりする。まさに仕草によって意味が絶えず変化するのだ。

問一 筆者がもつとも主張している所を、十五字以内で抜き出ささい。

問二 文章の筋道すじみちの立て方を説明したものととして、最ももっともふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選びなさい。

- ア 初めに筆者の主張しゅちやうが来て、次に具体例ぐたいれいが来る。
- イ 初めに具体例ぐたいれいが来て、次に筆者の主張しゅちやうが来る。
- ウ 初めに筆者の主張しゅちやうが来て、次にその理由りゆう付けがある。
- エ 初めに理由りゆう付けが来て、次に筆者の主張しゅちやうが来る。

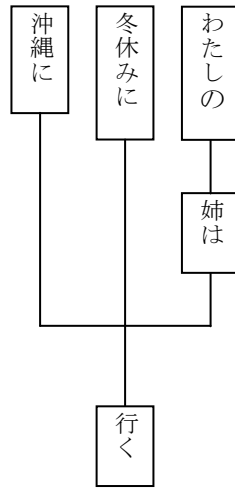
問三 () に入る二字の漢字を、本文ほんぶんから抜き出しなさい。

問四 この文章には論理的ろんりてきに間違まちがったところが、一か所あります。それをひらがな二字で抜き出し、正しくなるようにひらがな二字で直しなさい。

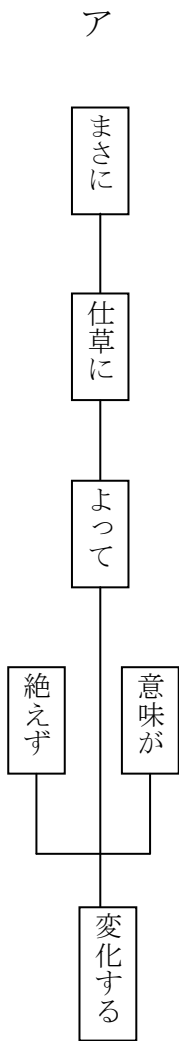
問五

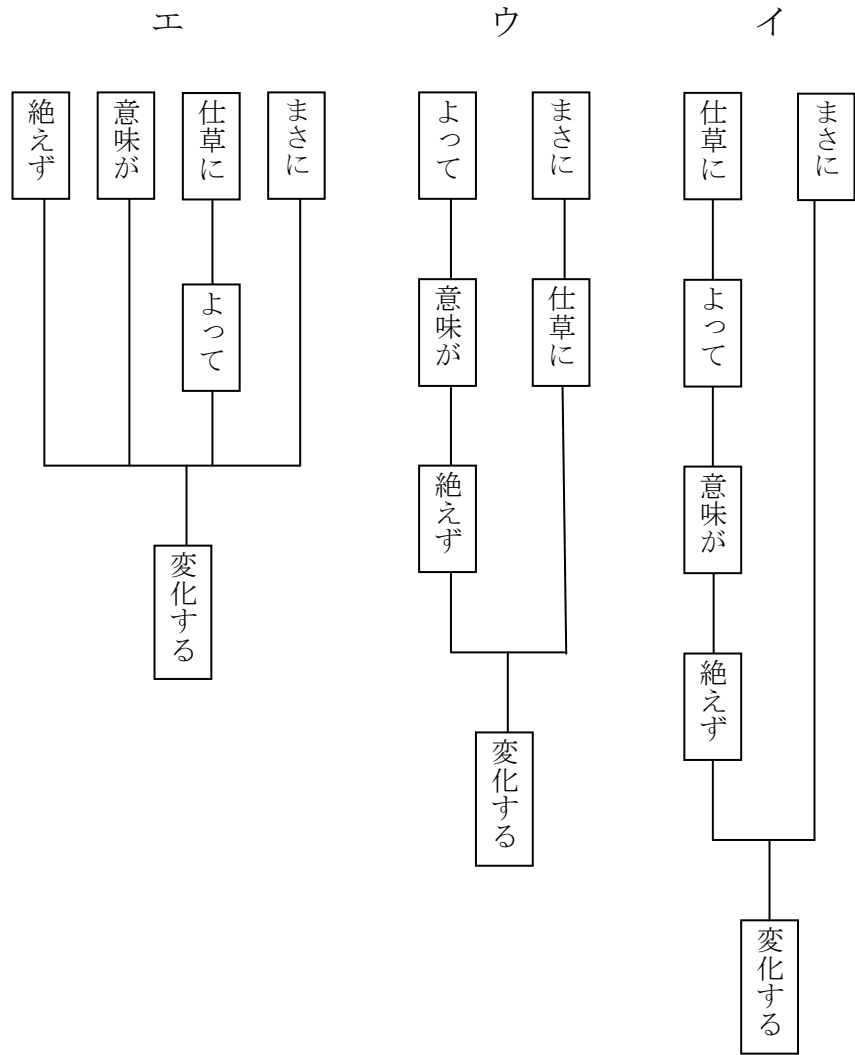
次の文は、後のような図に表すことができます。例にならって、次の文章の構造図として、最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選びなさい。

例 わたしの 姉は 冬休みに 沖縄おきなわに 行く



まさに 仕草しぐさに よって 意味が 絶えず 変化へんかする





問題IV 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

日本の国の呼び名は、「ニッポン」と「ニホン」の二通りがあります。大切な国の名前なのに、二通りの呼び名があるというのは不思議な気がしませんか。AとBの文章を読んで、後の問に答えなさい。

A 私は日本の国の呼び名は「ニッポン」の方がいいと思います。なぜなら、「ニッポン」の方が力強い気がするからです。「ニッ」で、一呼吸おいた後、「ポン」で力を込めて発音することができます。

B 私は日本の国の呼び名は「ニホン」の方がいいと思います。なぜなら、とても優しい感じがするからです。あまり力を込めずに、柔らかい感じで発音することができます。

問一 Aに賛成の理由となるものとその具体例を、ア～オからそれぞれ選びなさい。
問二 Bに賛成の理由となるものとその具体例を、ア～オからそれぞれ選びなさい。

- ア 力強く応援すると相手に気持ち伝わる。
- イ 「ニホンシユ」と言っても、「ニッポンシユ」とは言わない。
- ウ ワールドカップでは、「ニッポン、がんばれ」とみんなで応援した。
- エ 呼び方なんかにかかわる必要はない。
- オ 和を尊ぶ日本の文化にふさわしい。

問三

「ニッポン酒」のように、「ニッポン」という呼び名がおかしい例をひとつあげなさい。

問四

Aの意見から、「ニッポン」と呼ぶときは力を込めて、Bの意見から、「ニホン」と呼ぶときは柔らかい感じで発音すると分かりました。そこから考えると、他の国の人たちと仲良くしたいときは、「ニッポン」と呼ばない方がいいのかもしれませんが、では、その理由を三十字以内で説明しなさい。

